

-4 治水・利水の状況

治水及び利水の現状

荒川は「荒ぶる川」の名のとおり、常に氾濫洪水を繰り返してきている。表 1.2.2、表 1.2.3 及び図-4、-5 に示すように近年に至っても洪水が起きており、治水に関して万全とはいえない難く、首都圏を流域とする河川として治水の完備が急務である。また特に近年の洪水の特徴は、流域の都市化による保水力の低下によるところが多く、流域全体での対策が必要である。

利水に関しては、表 1.2.4 に示すように、武蔵水路から導水される利根川の水を含め、水道用水及び農業用水及び発電用水として利用されている。また特に水道用水では、現在約 1,370 万人（東京 1,050 万人、埼玉 320 万人）の水源となっている。しかし近年、2～3 年の間隔で取水制限を行うほどの洪水が発生しており、また、熊谷橋から久下橋の約 4km 区間で瀬切れが起きており、利水に関してはその整備等が急務となっている。（表-1.2.5、図-6）

表-1.2.2 近年の洪水時ピーク水位の比較

順位	熊谷水位観測所 (S41以降)			治水橋水位観測所 (S41以降)			岩淵水位観測所 (S20以降)		
	発生年月	台風名	水位(m)	発生年月	台風名	水位(m)	発生年月	台風名	水位(m)
1位	H11.8	熱帯低気圧	5.33	H11.8	熱帯低気圧	11.31	S22.9	カリン台風	8.6
2位	S57.8	台風10号	4.8	S49.8	台風16号	10.68	S33.9	狩野川台風	7.48
3位	S57.9	台風18号	4.19	S57.8	台風10号	10.42	H11.8	熱帯低気圧	6.3
4位	S49.8	台風16号	3.76	S57.9	台風18号	10.36	S23.9	アイオン台風	5.78
5位	H10.9	台風5号	3.68	H10.9	台風5号	9.5	S57.9	台風18号	5.65

資料：'99荒川の洪水記録パンフレット、建設省

表-1.2.3 主要な洪水被害

発生年月	行方不明者	浸水家屋(戸)
明治43年8月	321	85,099
昭和22年9月	16	28,520
昭和33年9月	5	63,150
昭和49年8月	3	1,329
昭和57年9月	1	17,168
平成3年9月	0	12,085
平成5年8月	0	3,312
平成10年9月	0	4,599
平成11年8月	0	2,352

明治43年8月及び昭和49年8月は埼玉県内全域の数値
他のものについては、埼玉県内の荒川流域の数値。
資料：建設省資料

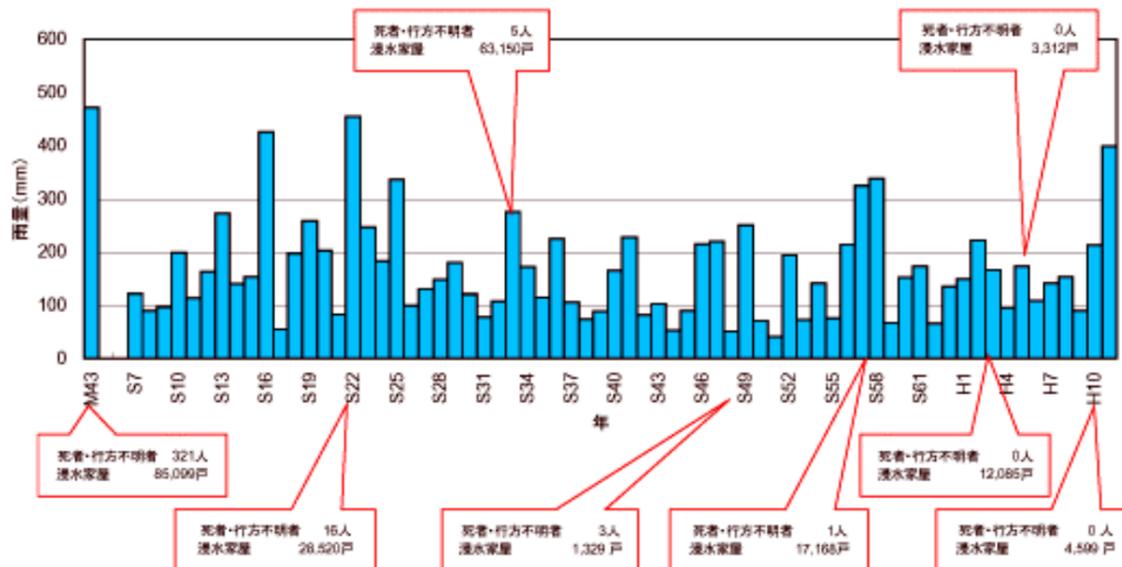


図-4 荒川・治水橋上流域平均3日雨量と被害 資料：建設省資料

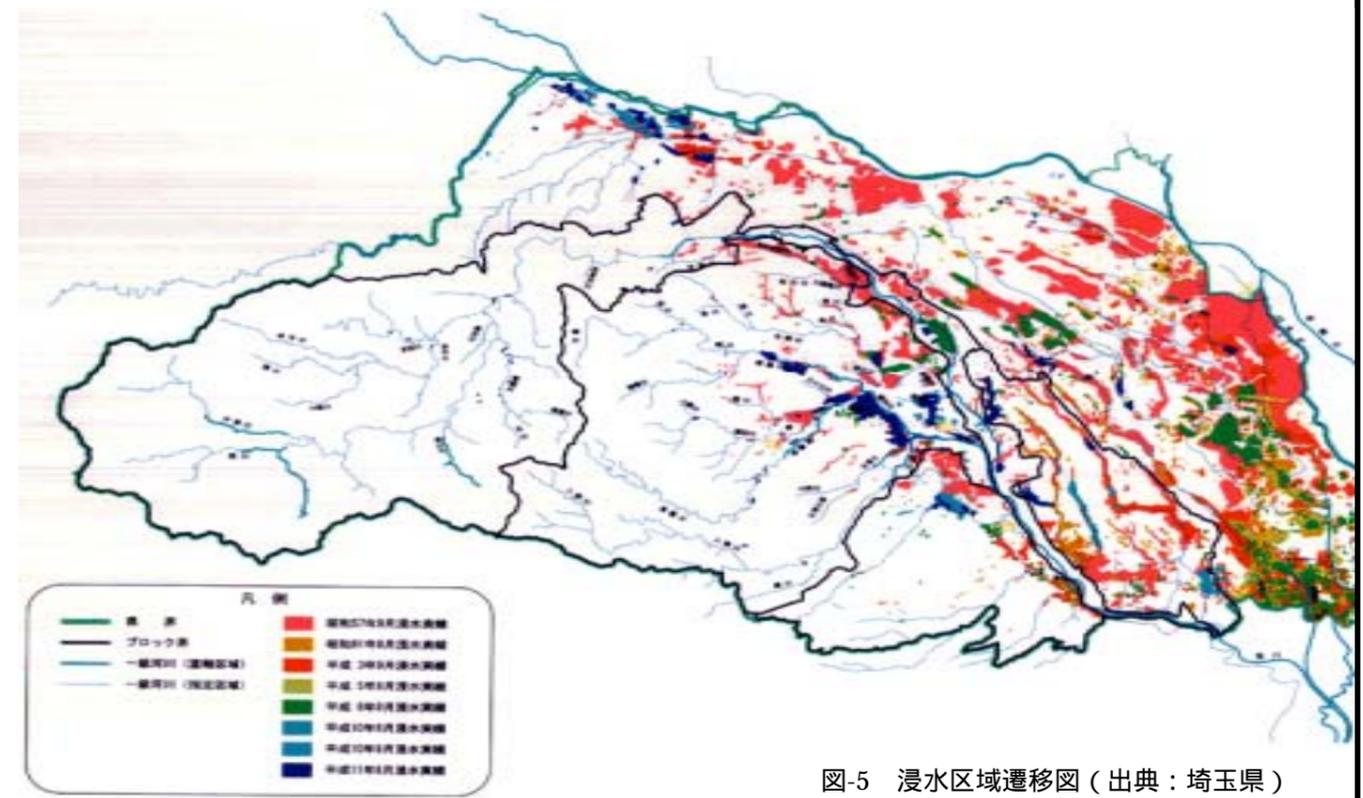


図-5 浸水区域遷移図 (出典：埼玉県)

表-1.2.4 平成10年度の荒川(利根川からの導水を含む)における水利権量(出典：建設省資料)

水源	荒川	利根川導水 (武蔵水路)	合計(m ³ /s)
水道用水	7.5714	37.278	44.8494
工業用水	0.577	2.78	3.357
農業用水	38.005	0	38.005
発電用水	77.15	0	77.15
計	123.3034	40.058	163.3614



図-6 熊谷市荒川大橋付近の瀬切れ発生状況

表1.2.5 近年の主要洪水(昭和62年以降)

発生年月	1 取水制限延日数	2 最大取水制限率	荒川の瀬切れ発生日数
昭和62年 5月～8月	63日	100%	29日
平成2年 7月～8月	18日	53%	44日
平成4年 9月	20日	54%	9日
平成6年 8月	5日	100%	-
平成7年12月～平成8年3月	127日	54%	-
平成8年 8月～9月	48日	54%	60日

上表 1及び 2は、埼玉県大久保浄水場の荒川に関する暫定取水量(約3.7m³/s)に対する取水制限延日数及び最大取水制限率を示す。

資料：荒川流域みらい会議資料より抜粋